

安全データシート

プロピレングリコール

1. 化学物質及び会社情報

化学物質の名称	プロピレングリコール
会社名	日本農産工業株式会社
住所	神奈川県横浜市西区みなとみらい 2-2-1 ランドマークタワー46F
担当部署	品質保証部
電話番号	045-224-3753
FAX 番号	045-224-3754
緊急時の電話番号	同上
用途	飼料または飼料添加物
使用上の注意	なし

2. 危険有害性の要約

物理化学的危険性	爆発物	分類対象外
	可燃性ガス	分類対象外
	エアゾール	分類対象外
	酸化性ガス	分類対象外
	高圧ガス	分類対象外
	引火性液体	区分に該当しない
	可燃性固体	分類対象外
	自己反応性化学品	分類対象外
	自然発火性液体	区分に該当しない
	自然発火性固体	分類対象外
	自己発熱性化学品	分類できない
	水反応可燃性化学品	分類対象外
	酸化性液体	分類対象外
	酸化性固体	分類対象外
	有機過酸化物	分類対象外
	金属腐食性物質	分類できない
	鈍性化爆発物	分類できない
健康に対する有害性	急性毒性（経口）	区分に該当しない
	急性毒性（経皮）	区分に該当しない

環境に対する有害性	急性毒性（吸入：ガス）	分類対象外
	急性毒性（吸入：蒸気）	分類できない
	急性毒性（吸入：粉じん、ミスト）	分類できない
	皮膚腐食性／刺激性	区分に該当しない
	眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	区分に該当しない
	呼吸器感作性	分類できない
	皮膚感作性	区分に該当しない
	生殖細胞変異原性	分類できない
	発がん性	分類できない
	生殖毒性	分類できない
	特定標的臓器毒性（単回ばく露）	区分 1（中枢神経系、血液系）、 区分 3（麻酔作用）
	特定標的臓器毒性（反復ばく露）	区分 1（中枢神経系、呼吸器）
	誤えん有害性	分類できない
	水生環境有害性 短期（急性）	区分に該当しない
	水生環境有害性 長期（慢性）	区分に該当しない
	オゾン層への有害性	分類できない
ラベル要素		
	絵表示またはシンボル	 
注意喚起語		
危険有害性情報		
危険 呼吸器への刺激のおそれ、または、 眠気またはめまいのおそれ 臓器の障害<中枢神経系、血液系> 長期にわたる、または反復ばく露による臓器<中枢神経系、呼吸器>の障害		
注意書き		
【安全対策】 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。 取扱後は手をよく洗うこと。 この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。		

屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。

【応急措置】

吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

ばく露またはその懸念がある場合：すぐに救急の医療処置を受けること。

気分が悪い時は、診察を受けること。

特別な処置が必要である。

【保管】

換気の良いところで保管すること。容器を密閉しておくこと。

施錠して保管すること。

【廃棄】

内容物／容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に依頼して廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	化学物質
化学名又は一般名	プロピレングリコール
慣用名又は別名	1,2-プロパンジオール
化学物質を特定できる一般的な番号	CAS No.57-55-6
成分及び濃度又は濃度範囲	97.5%以上
官報公示整理番号	(2)-234（化審法、安衛法）

4. 応急措置

吸入した場合	新鮮な空気のある場所に移すこと。症状が続く場合には、医師に連絡すること。
皮膚に付着した場合	すぐに石鹼と大量の水で洗浄すること。症状が続く場合には、医師に連絡すること。
眼に入った場合	眼に入った場合、数分間目を付けて洗浄する。もしコンタクトを装着していて、容易に取り外せるなら、取り外す。その後も洗浄を続ける。直ちに医師の手当てを受ける必要がある。
飲み込んだ場合	口をすすぐ。意識のない人の口には何も与えないこと。た

だちに医師もしくは毒物管理センターに連絡すること。医師の指示がない場合には、無理に吐かせないこと。

急性症状及び遅発性症状 眠気又はめまいのおそれ
の最も重要な徴候症状

5. 火災時の措置

適切な消火剤	水スプレー(水噴霧)、二酸化炭素(CO ₂)、泡、粉末消火剤、砂
使ってはならない消火剤	なし
特有の危険有害性	熱分解は刺激性で有毒なガスと蒸気を放出することがある。
特有の消火方法	危険を避けられれば、燃焼源の供給を停止する。 移動可能な容器は、安全に行える限り火災場所から搬出す。 移動が不可能な場合には、容器また周囲散水し冷却する。 安全な距離から散水し容器を冷却周囲の設備を保護する。
消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置	個人用保護具を着用すること。消防士は自給式呼吸器および消火装備を着用する必要がある。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。漏出した場所の周辺に、ロープを張るなどして関係者以外の立ち入りを禁止する。作業の際には適切な保護具を着用し、飛沫等が皮膚に付着したり、ガスを吸入しないようにする。 風上から作業して、風下の人を待避させる
環境に対する注意事項	漏出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。汚染された排水が適切に処理されずに環境へ排出しないように注意する
封じ込め及び浄化の方法及び機材	乾燥砂、土、おがくず、ウエス等に吸収させて、密閉できる空容器に回収する。
二次災害の防止策	環境規制に従って汚染された物体および場所をよく洗浄する。

7. 取り扱い及び保管上の注意

取扱い	
技術的対策	火気厳禁。高温物、スパークを避け、強酸化剤との接触を避ける。局所排気装置を使用すること。

安全取扱注意事項	静電気放電(有機物の蒸気を引火させうる)を避けるために必要な措置をとる。個人用保護具を着用すること。皮膚、眼、衣服との接触を避ける
接触回避	強酸化剤。 有機過酸化物。 過酸化性物質。詳細については SDS 第 10 項を参照。
保管	
安全な保管条件	直射日光を避け、換気のよいなるべく涼しい場所に密閉して保管する。
安全な容器包装材料	ガラス, 鉄
8. 暴露防止及び保護措置	
管理濃度	未設定
許容濃度（ばく露限界値、生物学的指標）	この供給された製品は地域の特定制剤機関によって発行された職業ばく露限界値のある有害危険物を含有していない。
設備対策	屋内作業場での使用の場合は発生源の密閉化、または局所排気装置を設置する。取扱い場所の近くに安全シャワー、手洗い・洗眼設備を設け、その位置を明瞭に表示する
保護具	
呼吸用保護具	保護マスク
手の保護具	化学防護手袋（JIS T 8116）
眼の保護具	側板付き保護眼鏡(必要により ゴーグル型または全面保護眼鏡)(JIS T 8147)
皮膚及び身体 の保護具	長袖作業衣。
9. 物理的及び化学的性質	
物理状態	液体
色	無色
臭い	無臭
融点／凝固点	-59 °C
沸点又は初留点及び沸点 範囲	189 °C
可燃性	データなし
爆発下限界及び爆発上限 界／可燃限界	上限： 12.6% 下限： 2.6%

引火点	98 °C
自然発火点	371°C
分解温度	データなし
pH	データなし
動粘性率	データなし
溶解度	水，エタノール：極めて溶けやすい。
n-オクタノール／水分配 係数（log 値）	データなし
蒸気圧	106.6Pa
密度及び／又は相対密度	1.033-1.039 g/mL
相対ガス密度	データなし
粒子特性	データなし

10. 安定性及び反応性

反応性	データなし
化学的安定性	常温常圧で安定。
危険有害反応可能性	通常の処理ではなし。
避けるべき条件	高温と直射日光，熱、炎、火花，静電気、スパーク，湿気
混触危険物質	強酸化剤
危険有害な分解生成物	一酸化炭素、二酸化炭素

11. 有害性情報

急性毒性	
経口	LD50：22,000mg/kg(Rat) 【分類根拠】 NITE の GHS 分類に基づく。
経皮	LD50：20,800mg/kg(Rabbit) 【分類根拠】 NITE の GHS 分類に基づく。
吸入：ガス	データ不足のため分類できない
吸入：蒸気	データ不足のため分類できない
吸入（粉じん・ミスト）	データ不足のため分類できない
皮膚腐食性／刺激性	刺激性なし
眼に対する重篤な損傷性 ／眼刺激性	刺激性はない。

呼吸器感作性又は皮膚感作性	呼吸器感作性 データが部分的または完全に欠如しているため分類できない。 皮膚感作性 陰性
生殖細胞変異原性	生殖細胞変異原性:in vitro 染色体異常 OECD473 結果: 陰性 生殖細胞変異原性:エームス試験 OECD 471 結果: 陰性
発がん性	日本産業衛生学会、ACGIH、NTP、IARC のいずれも記載なし
生殖毒性	データが部分的または完全に欠如しているため分類できない。
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	臓器（中枢神経系、血液）の障害（区分 1） 眠気又はめまいのおそれ（区分 3）
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	長期にわたる、又は反復ばく露による臓器（中枢神経系、呼吸）の障害（区分 1）
誤えん有害性	データが部分的または完全に欠如しているため分類できない。

12. 環境影響情報

生態毒性	
水生環境有害性 短期（急性）	甲殻類（ミジンコ：ダフニア マグナ）の 48 時間後 EC50 = 10.000mg/L 魚類（ファットヘッドミノー）の 96 時間後 LC50=710 mg/l,
水生環境有害性 長期（慢性）	データなし
残留性・分解性	易分解性 BOD 1.08g/g, COD(Cr) 1.68g/g, COD(Mn) 0.72g/g
生態蓄積性	log Pow0.92 - 1.32
土壌中の移動性	データなし
オゾン層への有害性	データなし

13. 廃棄上の注意

化学品（残余廃棄物）， 当該化学品が付着している 汚染容器及び包装の安全で，かつ，環境上望ましい 廃棄，又はリサイクルに関する情報	残余廃棄物：廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。 汚染容器及び包装：容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。
--	---

14. 輸送上の注意

国連番号	非該当
品名（国連輸送名）	非該当
国連分類(輸送における 危険有害性クラス)	非該当
容器等級	非該当
海洋汚染物質	非該当
国内規制がある場合の規制情報	国内輸送については15項の規制に従うこと。消防法、労働安全衛生毒劇物に該当する場合はそれぞれの該当法律に定められた運送方に従うこと。航空法の定めるところに従うこと。船舶安全法に定めるところに従うこと
輸送又は手段に関する特別の安全対策	取り扱いの前に安全指示、SDS および応急処置法を読むこと。運搬に際しては、容器を40℃以下に保ち、転倒、落下、損傷がないように注意すること。

15. 適用法令

該当法令の名称及びその法令に基づく規制に関する情報

消防法	危険物第四類 第三石油類 危険等級Ⅲ 水溶性
労働安全衛生法	令和7年4月1日からの施行（義務適用）予定 名称等を表示すべき危険有害物 名称等を通知すべき危険有害物
化審法	優先評価化学物質(法第2条第5項)
海洋汚染防止法	施行令別表第1 有害液体物質 Z 類物質

16. その他の情報

この安全データシートは、プレミックス研究会が作成した

安全データシートを基に、厚生労働省職場のあんぜんサイトのモデル SDS 情報、NITE-CHRIP、GHS 文書を参考に修正を加えたものです。

すべての資料や文献を調査したわけではないため、情報に漏れがあるかもしれません。また、新しい知見の発表や従来の説の訂正により内容に変更が生じます。重要な決定などにご利用される場合は、別途、資料や文献を調査し検討されるか、試験によって確かめることをお勧めします。なお、含有量、物理化学的性質などの数値は保証値ではありません。また、注意事項は、通常取り扱いを想定しており、特殊な取り扱いの場合には、別途注意が必要になることをご配慮ください。

<引用文献>

プレミックス研究会 SDS

<改訂履歴>

版	日付	内容
初版	2026 年 8 月 1 日	